

決算補足説明資料

FY22 3Q

2022年11月11日

ノーリツ鋼機株式会社
証券コード：7744（東証プライム市場）

NORITSU

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

■ 事業EBITDAについて

事業EBITDAは、営業利益から、その他の収益・費用を加減し、減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却費を除く）を加えて算出しております。連結財務諸表上に定義されていない指標であるものの、非経常的な損益や償却費に左右されない企業の本来の収益力を示すことから、連結財務諸表の利用者がノーリツ鋼機の業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

当期利益：親会社の所有者に帰属する当期利益

FY21：2021年12月期

FY22：2022年12月期

■ セグメント変更について

- 事業ポートフォリオの再編により、コア事業を「ものづくり」と再定義
- 報告セグメントもFY22から下記のとおり変更



FY22 3Q累計 連結業績

- 売上収益は、各事業の成長により増収。為替影響を除いても増収維持
- 営業利益は、売上収益の伸長に準じて進捗したものの、AlphaThetaの欧州地域における関税リスクを保守的に計上したこともあり、減益で着地
- 当期利益は、株式売却益に加え、外貨建て債権の為替の評価益等により、大幅増益
- テイボーは、筆記の伸長により売上収益の成長を堅持するも、中国のロックダウンやMIMにおける顧客の生産調整によって伸び率が鈍化
- AlphaThetaは、部品の需給逼迫状況、及びロックダウンによる中国市場の販売停滞は続くも、他地域での活況な需要により売上収益が大きく伸長。一方、欧州の関税リスクに対し、保守的に約4億円を原価計上
- JLabは、主要市場である米国において、在庫調整やコスト増加により苦戦するも、シェアを拡大し、累計で黒字基調へ。米国の市場成長率は-3%と落ち込んだが、JLabは+7%と成長*1
- ウクライナ情勢による販売影響は、2Q決算時から大きな変化はなし

FY22 通期連結業績予想

- 売上収益は据え置き、営業利益は欧州の関税リスクの計上もあり下方修正、当期利益は上方修正
- 個社別では、テイボーは据え置き。AlphaThetaは売上収益を上方修正するも、事業EBITDAは関税リスクの計上を受けて据え置き。JLabは主要チャンネルが総じて年末商戦の見通しを下げ、在庫調整をしている影響を織り込み、売上収益、事業EBITDAともに下方修正
- 各事業、物価高等によりコスト増の影響を受けていることから、利益率の改善が課題

*1 出典：NPD Group, Inc. 米国におけるトゥルーワイヤレスイヤホンのカテゴリ。2022年1月から9月の期間における販売金額の対前年同期成長率

AlphaThetaの販売子会社であるAlphaTheta EMEA Limited（以下「ATE」）が欧州地域での販売用に仕入れた一部製品に関して、欧州の税務当局から指導が発生。まだ指導段階であり、会計・税務処理の対応に言及されている段階ではないものの、保守的に約4億円の原価を3Q決算に反映

経緯

- 2022年8月、欧州の税務当局から一部製品のHSコード（統計品目番号）の変更に関する指導通知を受領
- ATEにおいて、以降の輸入においては、受領した内容に沿って通関手続きを実施済み
- 一方で、この変更が過去の販売分にまで適用され更正処分となった場合、過去分に渡っての関税の増額となるため、適用期間、及び適用カテゴリーの範囲の妥当性を含め、当局へ確認中
- 本日の決算発表時点では、税務当局からはHSコードに関する指導のみで、更正処分等、会計・税務処理に関わる通知は何も受けておらず、不確実性が高いものの、本件の特性から、マイナスのリスクとして保守的に本日公表の3Q決算に計上
- 仮に更正処分を受けた場合には、速やかに必要な措置を取る予定

業績への影響

- FY22 3Q決算でAlphaThetaの原価に計上。金額は他の事例から考え、過去3年分として約4億円

Contents

1. **FY22 3Q累計 連結業績**
2. **FY22 通期連結業績予想**
3. **トピック**

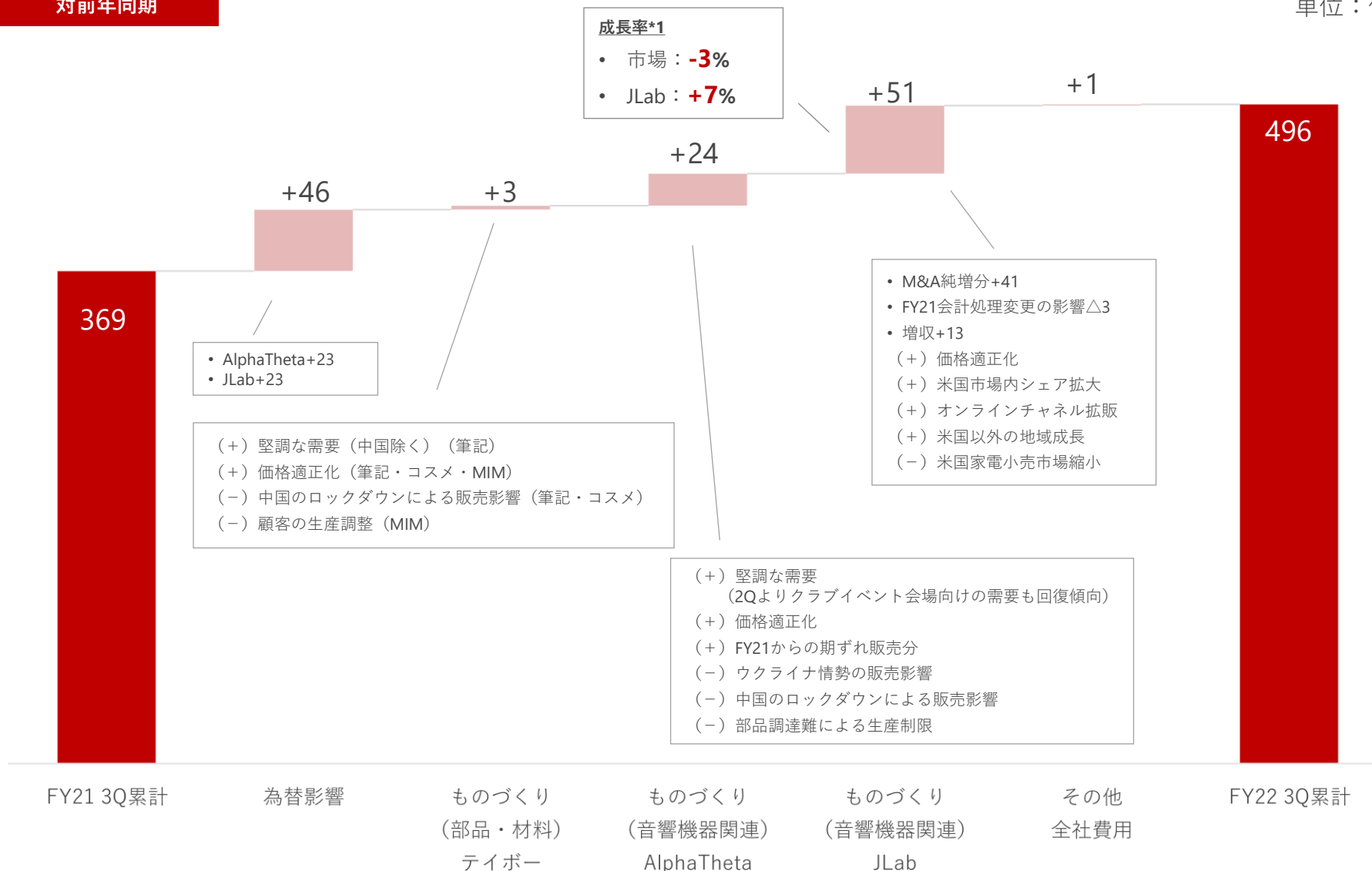
- 売上収益は、各事業の成長により増収。為替影響を除いても増収維持
- 営業利益は、売上収益の伸長に準じて進捗したものの、AlphaThetaの欧州地域における関税リスクを保守的に計上したこともあり、減益で着地
- 当期利益は、株式売却益に加え、外貨建て債権の為替の評価益等により、大幅増益

単位：百万円	FY21 3Q累計	FY22 3Q累計	増減額	増減率
売上収益	36,946	49,662	+12,715	+ 34.4%
事業EBITDA	8,412	6,980	△1,431	-17.0%
事業EBITDAマージン	22.8%	14.1%	△8.7%	-
営業利益	4,738	4,227	△511	-10.8%
当期利益	2,268	102,928	+100,661	+ 4,437.6%
為替レート (平均)	米ドル (円) 108.5	128.1	+19.6	-
	ユーロ (円) 129.8	136.0	+6.2	-
為替レート (期末)	米ドル (円) 111.9	144.8	+32.9	-
	ユーロ (円) 129.9	142.3	+12.4	-

*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

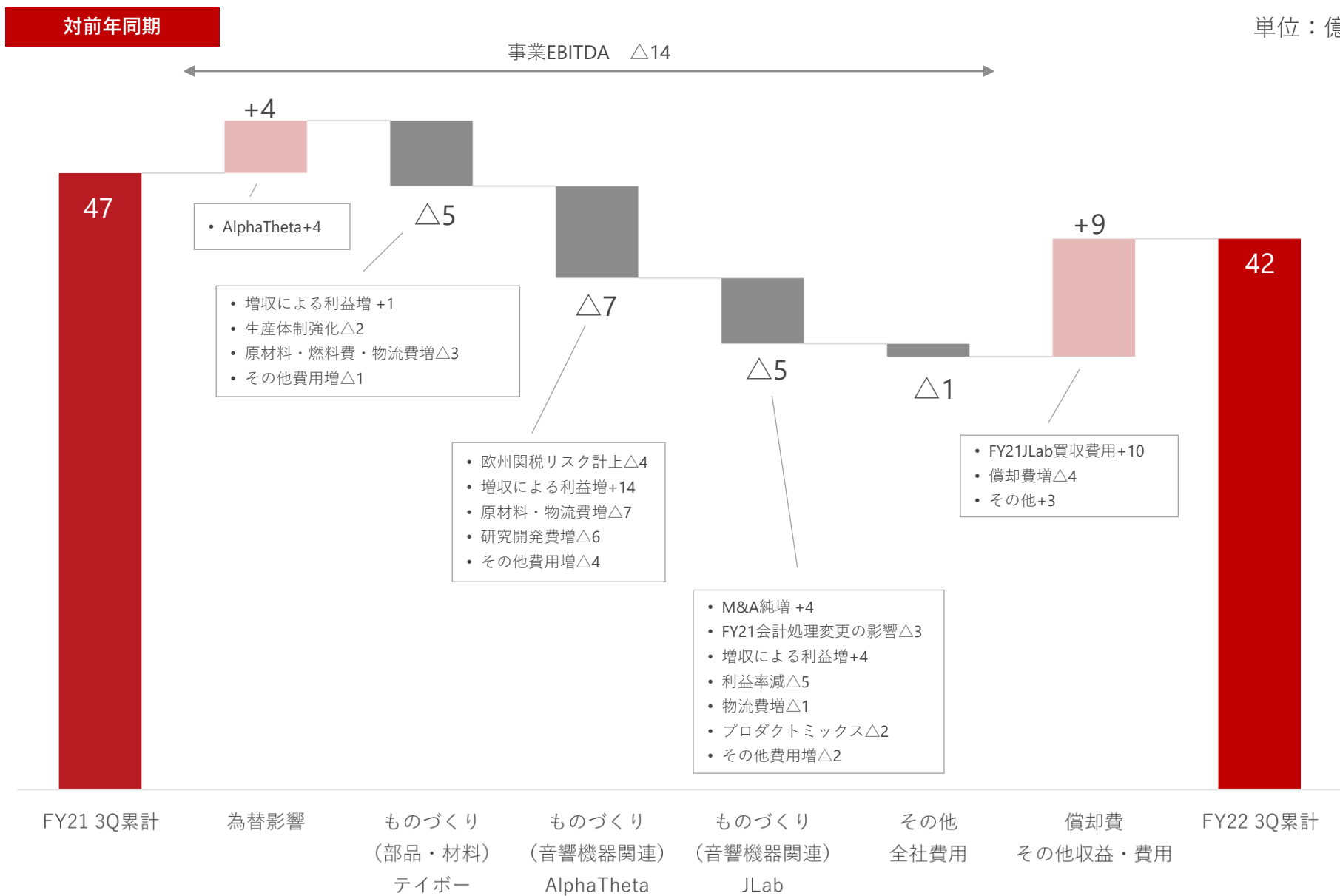
単位：億円

対前年同期



*1 出典：NPD Group, Inc. 米国におけるトゥルーワイヤレスイヤホンのカテゴリ。2022年1月から9月の期間における販売金額の対前年同期成長率

単位：億円



バランスシート の 状況

- FY22 1QからJMDCを連結除外
- 株式売却により現金性資産は大きく増加

単位：百万円	FY21 4Q	調整額	調整後 FY21 4Q ^{*1}	FY22 3Q	増減額
現金及び現金同等物	38,141	△14,459	23,682	95,395	① +71,713
売上債権及びその他の債権	21,865	△8,687	13,178	14,317	+1,139
棚卸資産	14,638	△280	14,358	21,070	+6,712
のれん	72,179	△19,367	52,812	55,990	+3,178
無形資産	83,065	△5,091	77,974	81,195	+3,221
その他資産	34,249	△12,509	21,740	60,258	② +38,518
資産合計	264,141	△60,393	203,748	328,225	+124,477
仕入債務及びその他の債務	13,282	△5,945	7,337	7,852	+515
借入金	95,619	△11,898	83,721	52,027	③ △31,694
その他負債	28,503	△12,396	16,107	63,558	④ +47,451
負債合計	137,404	△30,239	107,165	123,437	+16,272
資本合計	126,736	△30,154	96,582	204,787	+108,205
有利子負債	95,619	△11,898	83,721	52,027	△31,694
現金性資産	40,391	△14,459	25,932	140,026	⑤ +114,094
Net Debt	55,227	+2,561	57,788	△87,999	△145,787

主な増減要因

- ① 現金及び現金同等物+717億円
 - ・ 事業EBITDA+69億円
 - ・ 子会社株式の売却 +1,118億円
 - ・ 借入金の返済△352億円
 - ・ 配当金の支払△73億円
- ② その他資産+385億円
 - ・ 投資有価証券（JMDC株式）+421億円
- ③ 借入金△316億円
 - ・ 返済（期限前弁済含む）△352億円
- ④ その他負債+474億円
 - ・ 未払法人税の増加 +339億円
 - ・ 繰延税金負債の増加+123億円
- ⑤ 現金性資産+1,140億円
 - ・ 投資有価証券（JMDC株式）421億円含む

*1 2021年12月末のJMDCの公表数値を控除した参考値

セグメント別業績は下記のとおり

単位：百万円		FY21 3Q累計	FY22 3Q累計	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	9,122	9,452	+330	+3.6%
	事業EBITDA	3,263	2,774	△489	-15.0%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	27,058	39,299	+12,241	+45.2%
	事業EBITDA	5,559	4,722	△837	-15.1%
AlphaTheta	売上収益	19,789	24,577	+4,787	+24.2%
	事業EBITDA	5,024	4,699	△325	-6.5%
JLab	売上収益	7,269	14,722	+7,453	+102.5%
	事業EBITDA	535	23	△512	-95.7%
その他・全社費用	売上収益	765	909	+143	+18.8%
	事業EBITDA	△411	△516	△105	-
連結合計	売上収益	36,946	49,662	+12,715	+34.4%
	事業EBITDA	8,412	6,980	△1,431	-17.0%

Contents

1. FY22 3Q累計 連結業績
2. FY22 通期連結業績予想
3. トピック

ものづくり（部品・材料）/テイボー

- 予想は変更せず
- 筆記は、欧州及び国内市場が軟調も米国市場の好調でカバー
- コスメ及びMIMは見通しに変化なし
- 為替影響は僅少

ものづくり（音響機器関連）/AlphaTheta

- 欧州の関税リスクを計上
- 需要の好調と為替の円安進行による売上伸長
- 中国のロックダウンによる中国市場の軟調及びリードタイムの長期化
- 更なるコスト抑制を実施

ものづくり（音響機器関連）/JLab

- 為替の円安進行による売上伸長
- 米国の主要チャネルによる在庫調整やコスト上昇
- シェア拡大のためオンラインチャネルでの拡販と販促活動への先行投資

- 売上収益は、据え置き
- 営業利益は、欧州の関税リスクの計上もあり下方修正
- 当期利益は、上方修正

単位：百万円	FY22 8/12付修正予想	FY22 11/11付修正予想	対8/12付 修正予想	FY21	対前期	
売上収益	73,400	73,400	-	54,481	+ 34.7%	
事業EBITDA	11,800	10,800	△1,000	10,739	+ 0.6%	
事業EBITDAマージン	16.1%	14.7%	△1.4%	19.7%	△5.0%	
営業利益	7,000	6,600	△400	6,068	+ 8.8%	
当期利益	102,600	103,800	+1,200	5,115	+ 1,929.2%	
為替レート (平均)	米ドル (円)	125.0	132.0	+7.0	109.8	+22.2
	ユーロ (円)	133.0	137.0	+4.0	129.9	+7.1
為替レート (期末)	米ドル (円)	132.0	140.0	+8.0	115.0	+25.0
	ユーロ (円)	135.0	140.0	+5.0	130.5	+9.5

*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。同様にFY21においても組み替えております。

- AlphaThetaは、売上収益を上方修正するも、事業EBITDAは欧州関税リスクの計上を受けて、据え置き
- JLabは、主要チャンネルが総じて年末商戦の見通しを下げ、在庫調整をしている影響を織り込み、売上収益、事業EBITDAともに下方修正

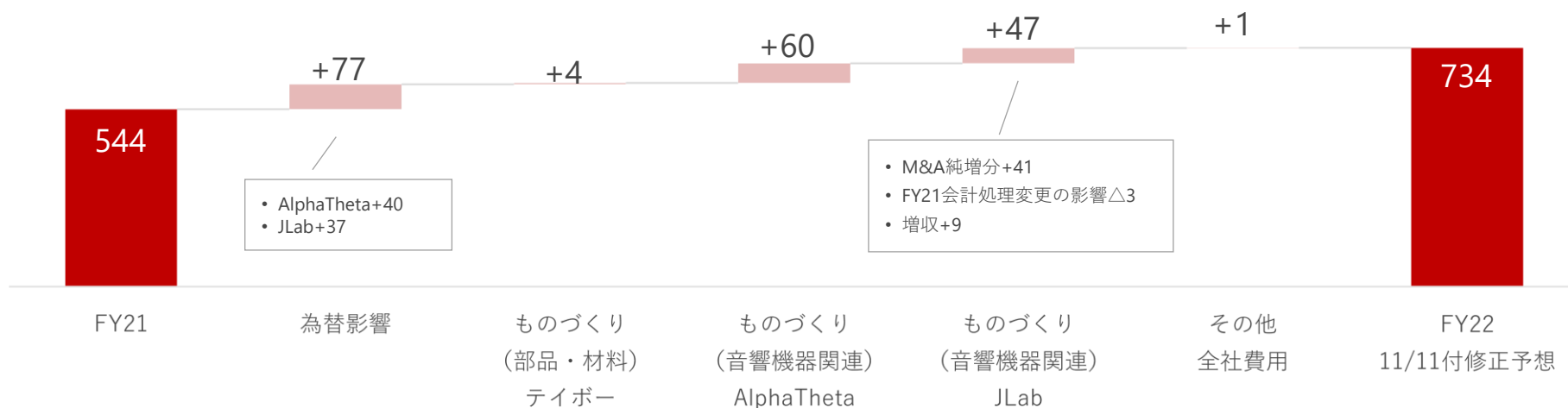
単位：百万円		FY22 8/12付修正予想	FY22 11/11付修正予想	対8/12付 修正予想	FY21	対前期
ものづくり (部品・材料)	売上収益	12,700	12,700	-	12,282	+3.4%
	事業EBITDA	3,600	3,600	-	4,185	-14.0%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	59,500	59,500	-	41,107	+44.7%
	事業EBITDA	9,100	7,900	△1,200	7,076	+11.6%
AlphaTheta	売上収益	36,000	36,500	+500	26,511	+37.7%
	事業EBITDA	6,700	6,700	-	5,671	+18.1%
JLab	売上収益	23,500	23,000	△500	14,596	+57.6%
	事業EBITDA	2,400	1,200	△1,200	1,404	-14.6%
その他・全社費用	売上収益	1,200	1,200	-	1,090	+10.1%
	事業EBITDA	△900	△700	+200	△522	-
連結合計	売上収益	73,400	73,400	-	54,481	+34.7%
	事業EBITDA	11,800	10,800	△1,000	10,739	+0.6%

対8/12付修正予想

単位：億円

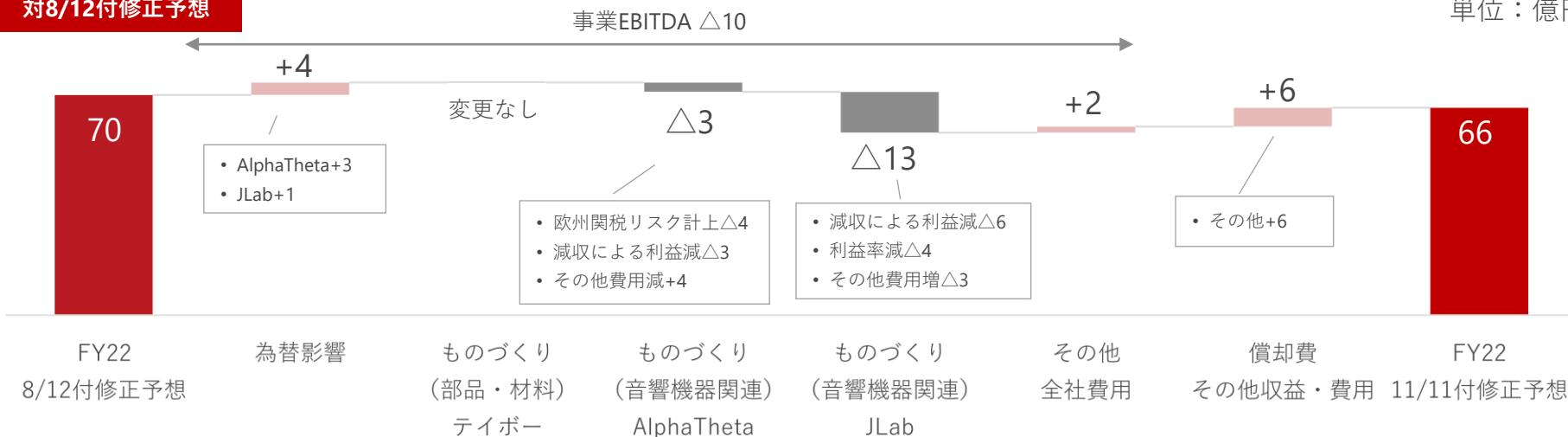


対前期

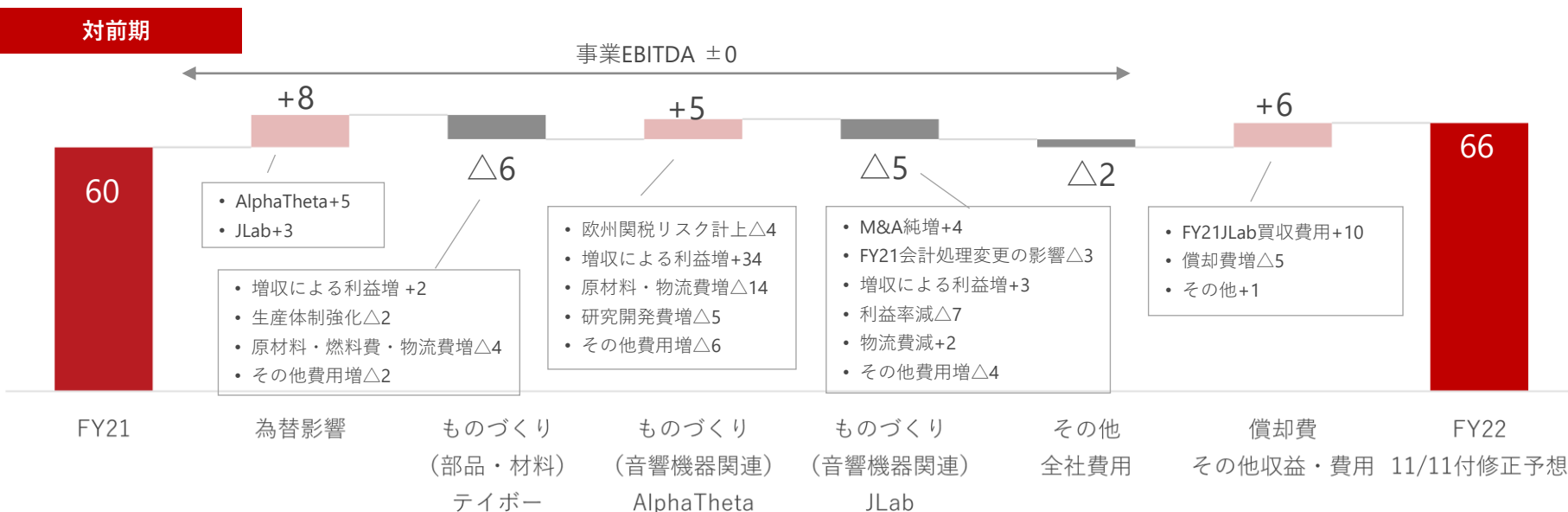


対8/12付修正予想

単位：億円



対前期



当期は先行投資となるものも含むが、各社収益性改善の取り組みを実施中

取り組み内容	
テイポー	<ul style="list-style-type: none">• 価格適正化• 生産効率化<ul style="list-style-type: none">➢ 継続的な原価低減活動の実施➢ 製造工程の内製化➢ 新製造方法の導入及び新設備導入
AlphaTheta	<ul style="list-style-type: none">• 価格適正化• 安定した生産及び供給（来期生産分の市中在庫を確保。先行投資）• 新商品、新サービス導入による顧客層の拡大
JLab	<ul style="list-style-type: none">• 価格適正化• 複数調達による仕入価格の減少（効果は来期以降）• 在庫の先行投資による航空便利用度の減少• オンラインチャネルでの拡販（先行投資）• 積極的な販促活動によるシェア拡大（先行投資）• 米国外地域への進出

Contents

1. FY22 3Q累計 連結業績
2. FY22 通期連結業績予想
3. トピック

- 楽曲認識技術におけるグローバルマーケットリーダーであるDJ Monitor B.V.との資本業務提携を開始
- 両社の技術を共有し、新たな楽曲認識技術の開発や新規サービスの拡充等を推進

AlphaTheta



- 2014年に開始した、世界中のミュージシャンや著作権者へのロイヤリティの公正な分配を支援することを目的としたサービス「KUVO」を含む、「Pioneer DJ」とその関連ブランドを展開

- 楽曲認識技術におけるグローバルマーケットリーダー
- 2005年以来、正確な楽曲利用情報とミュージシャンや著作権者へのロイヤリティ分配を促進させる技術を開発し、サービスとして提供

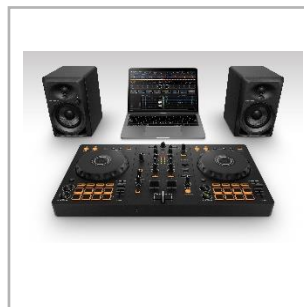
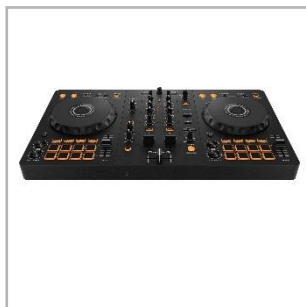
今後の活動

両社の技術を共有し、新たな楽曲認識技術の開発、著作権に関する正当なロイヤリティ分配のためのエコシステム確立、新規サービスの拡充等を推進

- 2022年11月下旬、マルチアプリ対応2ch DJコントローラー『DDJ-FLX4』を発売（予定）
- 全世界でエントリー層向けのスタンダードモデルとなった『DDJ-400』の後継機種
- これからDJを楽しみたい方にも親しみやすく、操作しやすいシンプルなデザインを採用



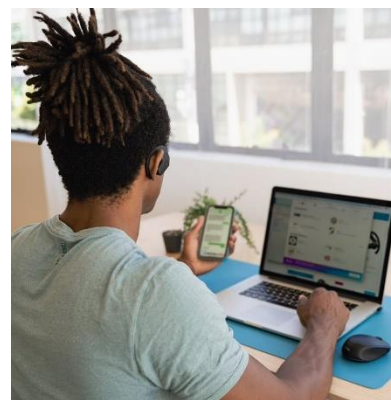
さまざまなデバイスから
DJを楽しめる
マルチデバイス対応



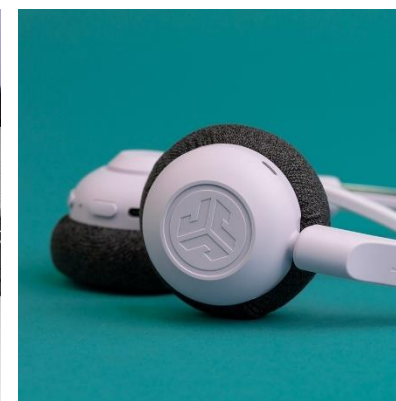
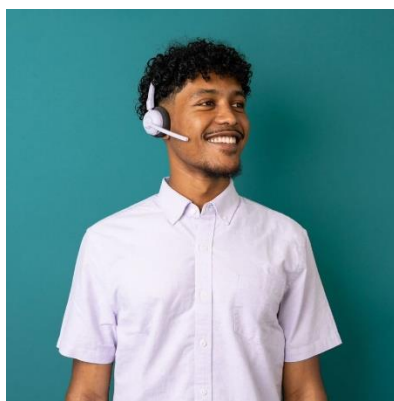
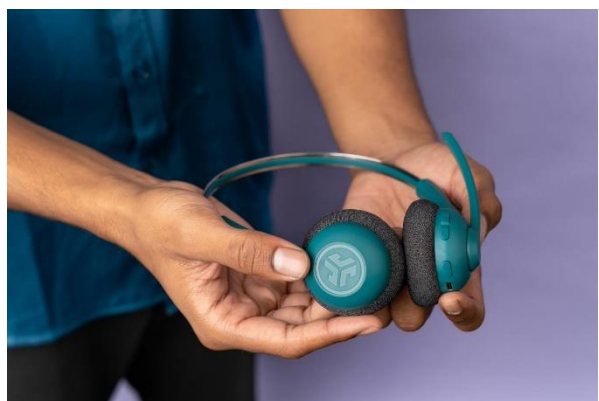
楽しくクリエイティブな
ミックスを可能にする
SMART CFX機能と
SMART FADER機能

- 2022年8月、オープンイヤー型の完全ワイヤレスイヤホン『OPEN SPORT』を発売
- 2022年9月、GO WORKシリーズから軽量化ヘッドホン『GO WORK POP』を発売

■耳を塞がず、サングラスにも取り付けられるオープンイヤー型完全ワイヤレスイヤホン『OPEN SPORT』



■リモートワークや移動に最適な軽量タイプの『GO WORK POP』 ※Black,Lilac,Tealの3色



Appendix

為替の各事業への影響について

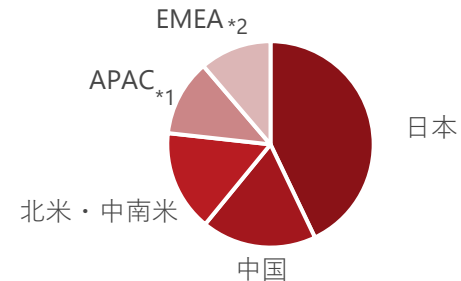
- 米ドル及びユーロ取引が多いAlphaTheta及びJLabで影響あり
- 円安はグループ全体では営業利益プラスに

概要

FY21 地域別売上収益構成比

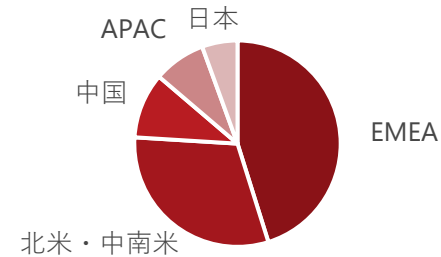
テイボー

- グローバルで販売及び仕入ともに円貨取引が基本のため**対米ドル、対ユーロともに影響は僅少**



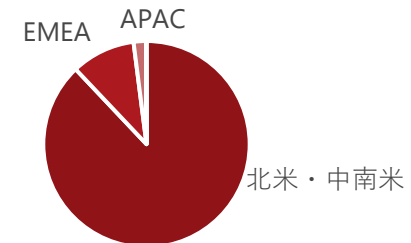
AlphaTheta

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- EMEAの売上収益が大きいいため、**対ユーロで円安は利益プラス**
- 北米を中心とする米ドルでの売上収益が仕入をやや下回るため、**対米ドルで円安は利益マイナス**



JLab

- 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル
- 米国の売上収益が大きいいため、**対米ドルで円安は利益プラス**
- 米国以外は売上収益がまだ小さいため影響は軽微



*1 APACは、アジア、オーストラリア（日本、中国を除く）

*2 EMEAは、ヨーロッパ、中東、アフリカ

為替の通期連結業績への影響は以下のとおり

※2022年11月11日更新

為替レート（平均）の1円円安による影響額

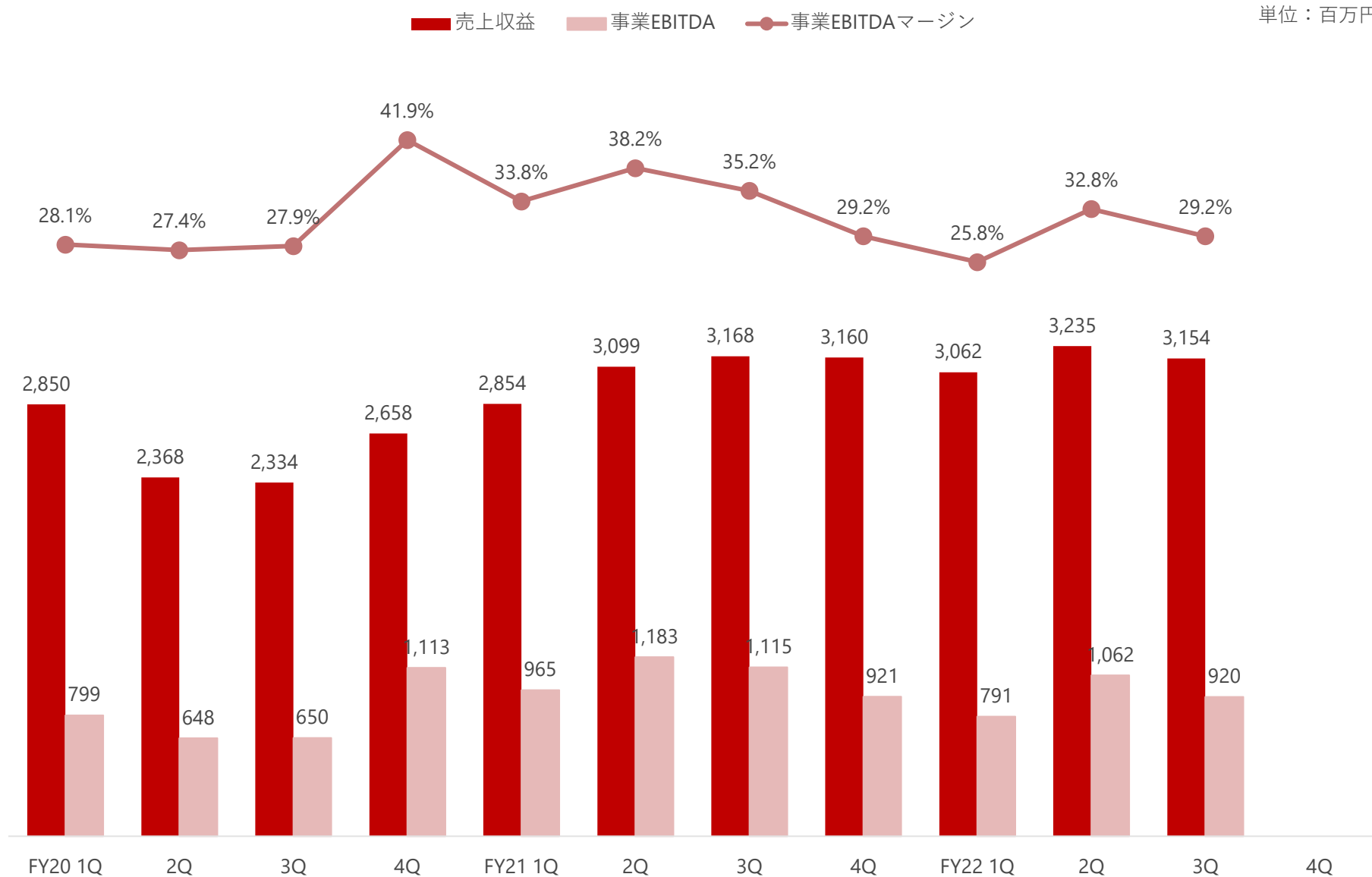
通貨	FY22予想 為替前提	売上収益	事業EBITDA/営業利益
米ドル	132.0円	+2.8億円	+0.1億円
ユーロ	137.0円	+0.9億円	+0.9億円

為替レート（期末）の1円円安による影響額

通貨	FY22予想 為替前提	税引前利益
米ドル*1	140.0円	+2.6億円
ユーロ*2	140.0円	△2.0億円

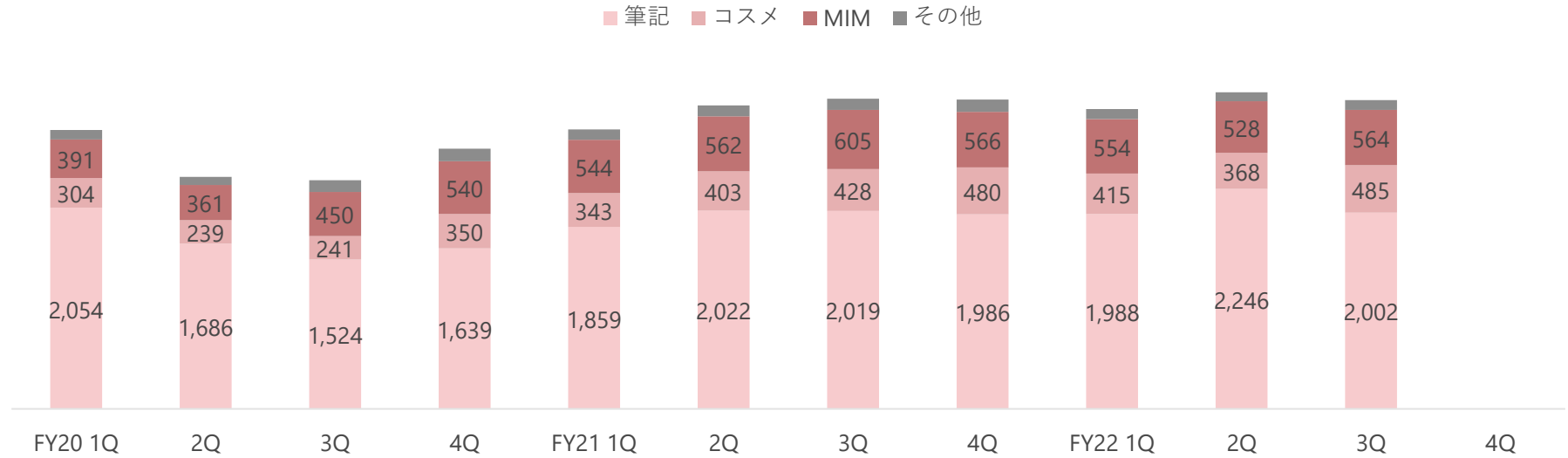
*1 外貨建て貸付金（グループ内）の評価替えによる為替差損益。回収に伴う残高減少に伴い影響額は減少

*2 外貨建てローンの評価替えによる為替差損益。返済による残高減少に伴い影響額は減少



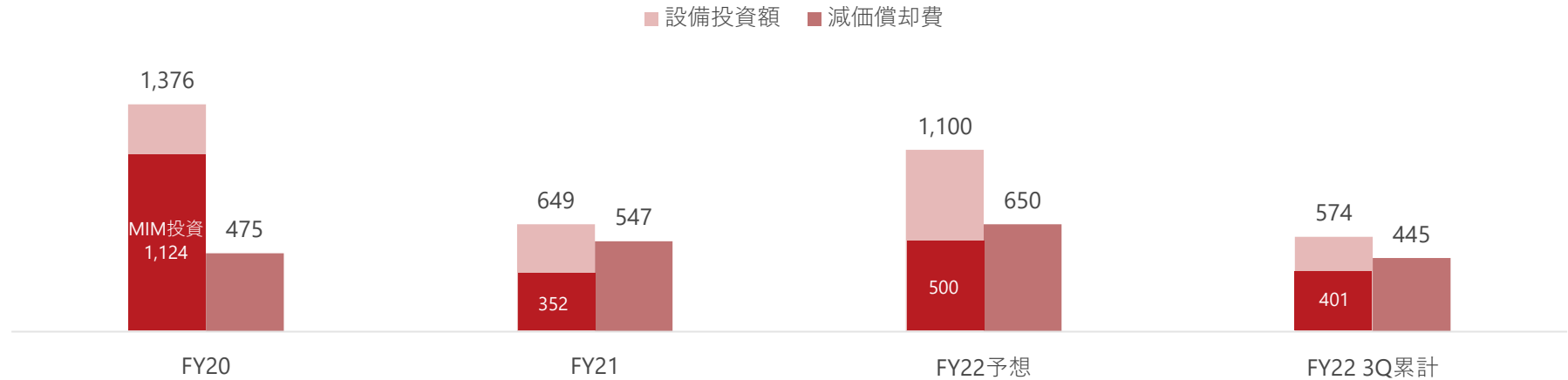
カテゴリ別売上収益推移

単位：百万円



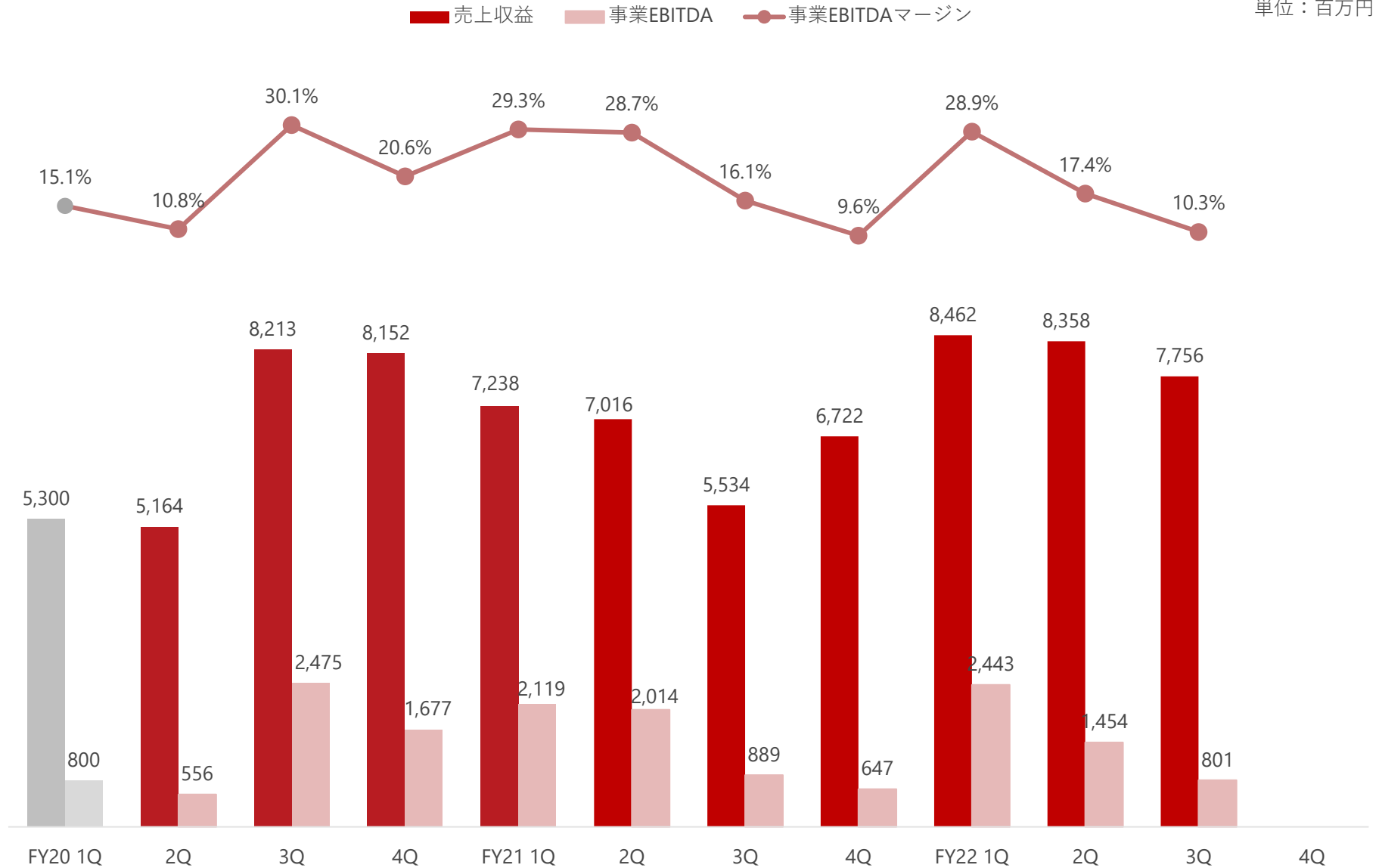
設備投資・減価償却費 *1

単位：百万円



*1 使用権資産に係る償却費及びPPAの償却費を除く

単位：百万円



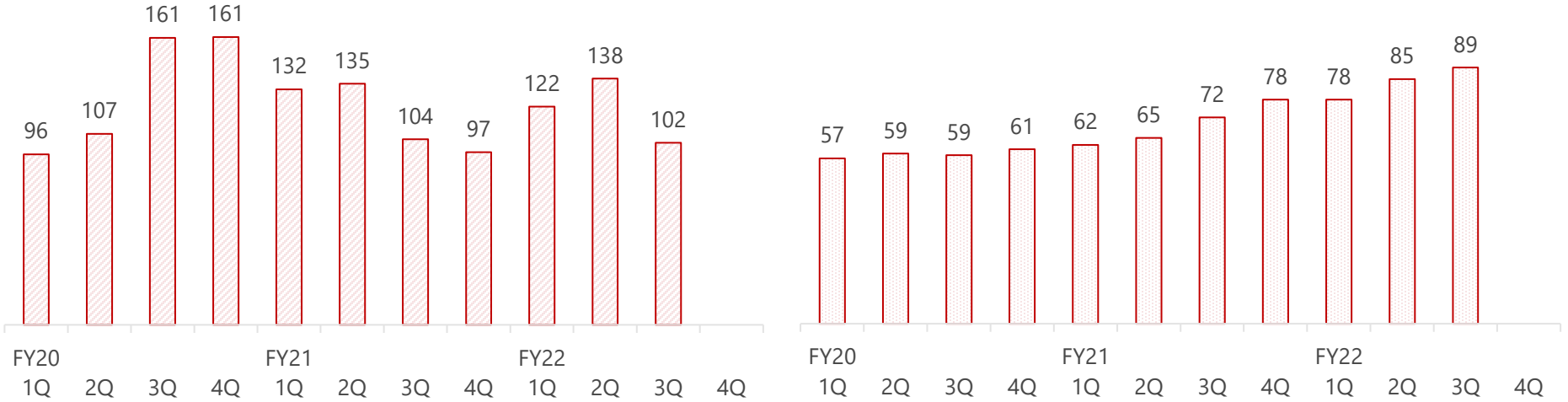
*グレーの期間は、グループ外のため参考値

DJ機器出荷台数

単位：千台

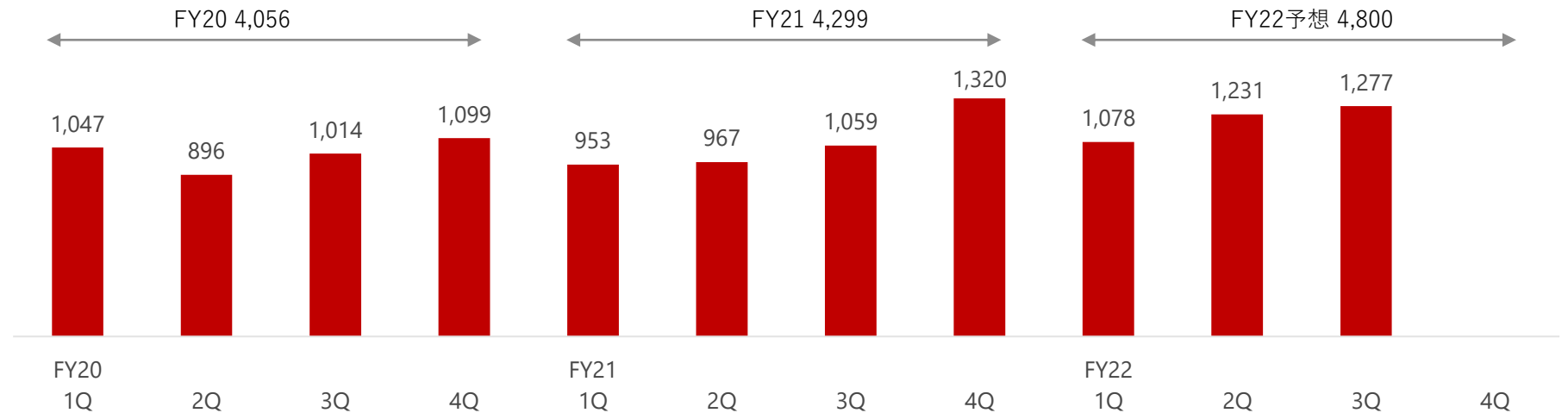
DJ向けアプリケーションMAU

単位：万人

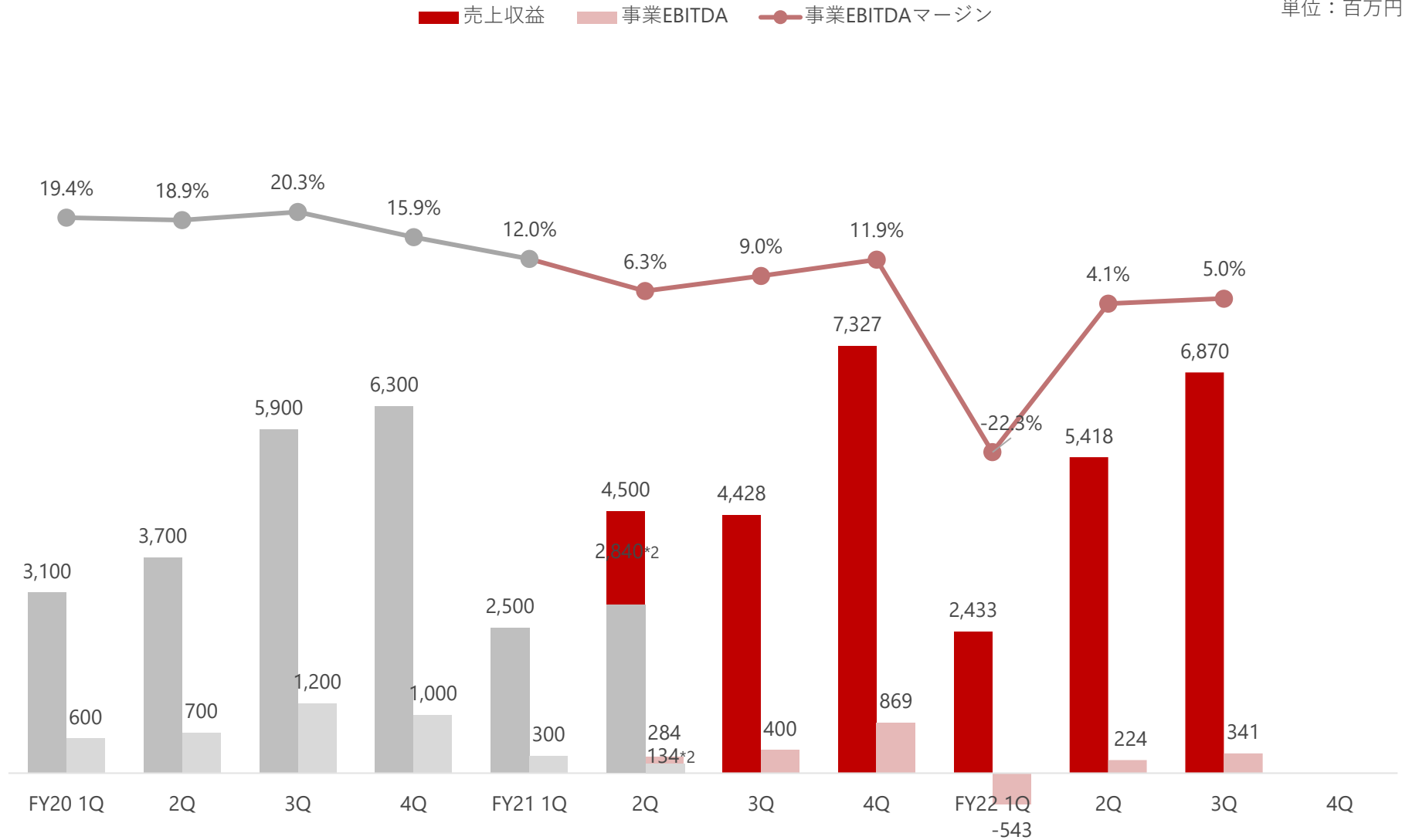


研究開発費

単位：百万円



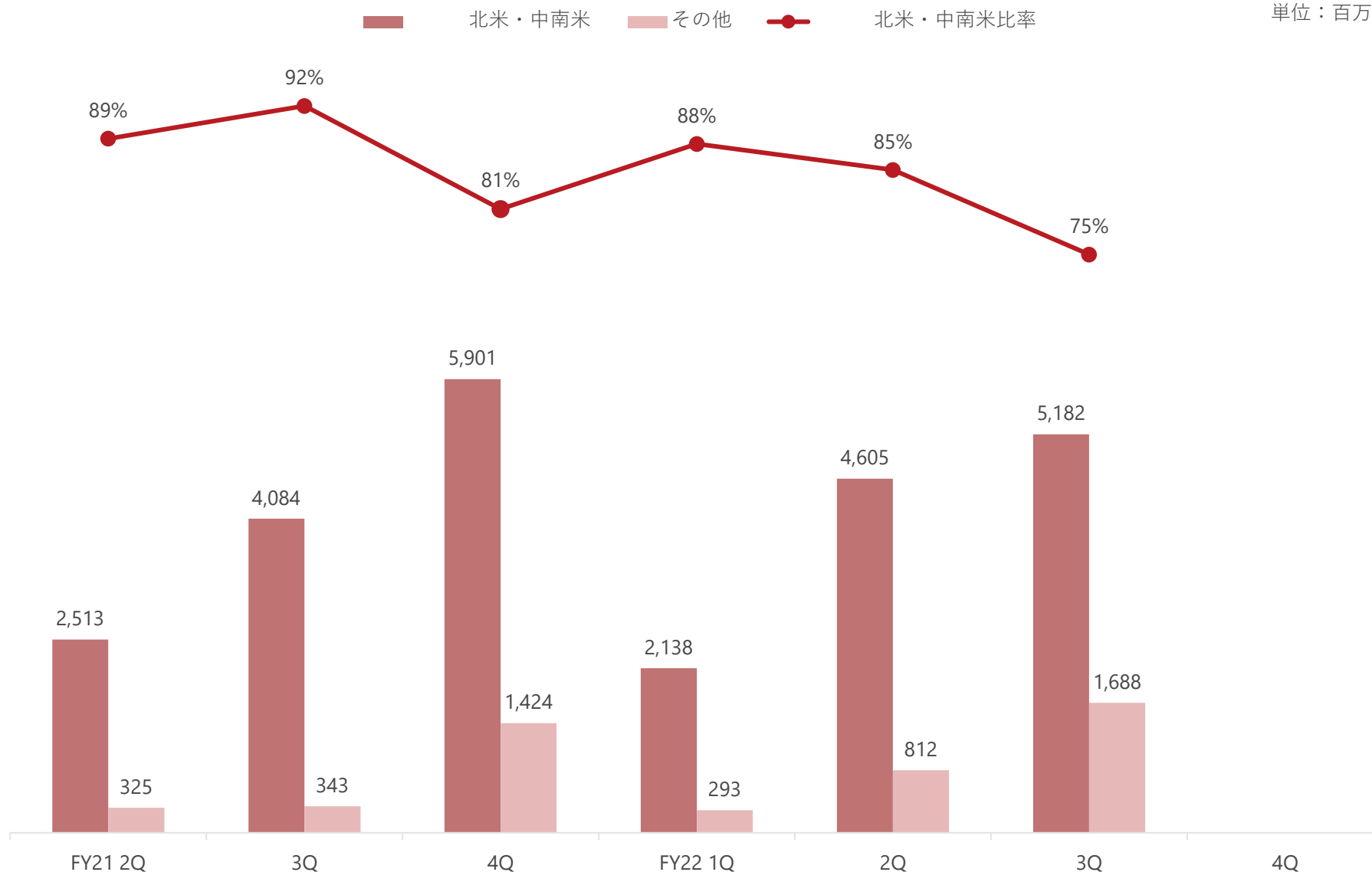
単位：百万円



*1 グレーの期間は、グループ外のため参考値。米国会計基準。1米ドル106円で換算

*2 2021年5月にグループ入りした以降の金額

単位：百万円



*2021年5月にグループ入りした以降の金額

社名 ノーリツ鋼機株式会社（東証プライム市場：7744）

代表者 代表取締役CEO 岩切 隆吉

創業 1951(昭和26)年6月

設立 1956(昭和31)年6月

資本金 7,025,302,000円

本社 東京都港区麻布十番1-10-10 ジュールA 5階

取締役	岩切 隆吉	取締役 (監査等委員)	太田 晶久
	横張 亮輔		伊庭野 基明
	大塚 あかり		高田 剛

部品・材料

先端及び極小部材の製造事業

テイボー株式会社

会社名 テイボー株式会社
代表者 代表取締役会長 高原建司
資本金 50百万円
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 筆記分野ペン先部品（フェルト、合成繊維、プラスチック）、非筆記分野、先端部材、MIM製造部品、コスメ用ペン先部材（合繊芯、プラスチック芯、ポリブチレンテレフタレート樹脂（PBT）ブラシなど）等の製造・販売

■グループ会社

泰宝制筆材料(常熟)有限公司（テイボー100%子会社）
 ・マーキングペン先部品の中国（江蘇州）における製造・販売拠点

株式会社 soliton corporation（テイボー100%子会社）
 ・コスメ用ペン先部材の製造・販売

音響機器関連

音響、音楽制作機器の商品開発事業

AlphaTheta株式会社

会社名 AlphaTheta株式会社
 （旧Pioneer DJ株式会社）
代表者 代表取締役社長 片岡芳徳
資本金 1億円（2021年12月31日現在）
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 DJ/CLUB機器、業務用音響機器、音楽制作機器の商品開発・設計・及び販売、ならびにそれらのサービスに関する事業

■販売子会社

AlphaTheta EMEA Limited
AlphaTheta Music Americas, Inc.
AlphaTheta (Shanghai) CO., Ltd.

音響機器関連

パーソナルオーディオデバイス製品事業

PEAG, LLC dba JLab

会社名 PEAG, LLC dba JLab
代表者 Winthrop Cramer, CEO
資本金 26M USD（2020年12月31日現在）
主要株主 ノーリツ鋼機株式会社
事業内容 パーソナルオーディオデバイス及びテクノロジー製品の設計及び販売

NORITSU

本資料に記載されているいかなる情報も、当社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、当社は当資料の内容に関し、いかなる保証をするものでもありません。

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、
これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、
いかなる確約や保証を行うものではありません。